

人生ハンド仏句

第45号

H. 17. 12. 1

(毎月1日発行)

真実最高のお経

(十月号の続き)

住職 谷川寛俊

法華経方便品第二には、

「吾れ成仏してより己来、種々の因縁、種々の比喻をもつて広く言教をのべ、無数の方便をもつて衆生を引導して、もろもろの著をはなれしむ」

悟りを開き仏になってから四十二年間、無数の方便の教えを説いて、人々を導いてきたと言われたのです。そのあと、

「未だ説かざる所以は、説時、未だ至らざるがゆえなり。いま、正し

くこれその時なり。決定して大乘を説く」とお述べになり、いよいよ真実の教えである法華経を説く時が来た。

「今、正しくこれその時なり」と「決定して大乘を説く」と宣言されたのであります。その他法華経の中には、

「正直に方便を捨て、たゞ無上道を説く。」(方便品第二)

「此の経は、方便の門を開いて、真実の相を示す。」(方便品第二)

「世尊は、法久しくして後、要らず、まさに真実を説きたもうべし」(方便品第二)

大きい建物を建てる時には、どうしても足場を作らねばなりません。しかし建物が出来てしまえば足場はいらなくなりません。四十二年間説いてきた教えは、法華経という本館を建てる為の足場のような物であると、繰り返しお話し下さったのです。

「我が諸説の諸経、しかも此の経にお

いて、法華経最も第一なり」

(法師品第十)

「我れ、仏道を得て無量の土に於いて始めより今に至るまで、広く諸経を説く、しかも其中に於いて此の経第一なり」(見宝塔品第十一)

私が説いてきた全てのお経を統一するということとは、法華経の中に、法華経以外の四十二年間の諸経が全て含まれているということ。法華経が真実最高のお経であることを、お釈迦様ご自身が繰り返し述べられただけでなく、多宝仏が法華経の真実であることを証明されたのです。これも法華経がその他の諸経と異なる重要な点であります。お釈迦様が法華経をお説きになつていた時、突然金色のまばゆいような七宝の塔が出現し、中から多宝如来の、宇宙法界に響き渡るような大音声がかえってきました。

このことを皆さんがお唱えになつて
いる欲了衆の最後に「その時に宝塔
の中より、大音声を出してほめての
たまわく、善哉、善哉、釈迦牟尼世
尊、能く平等大慧教菩薩法、仏所護
念の妙法華経をもつて、大衆の為に
説き給もう、かくの如し、かくの如
し、釈迦牟尼世尊、所説の如きは、
皆これ真実なり」(見宝塔品第十一)
お釈迦様が自ら法華経が真実の教え
であると言われただけでなく、いわ
ば第三者である多宝如来が、この娑
婆世界とは違う別の世界(宝浄世界)
から、わざわざ来た様な方便の教え、
飯の教え、随他意の教えではなく、
真実最尊の教え、人々を救う最高の
法であると、証明なさつたのです。
法華経とはそういうお経であります。

